

さしは

此日は別て數多の人にいざなはれ、田中の道へ
と引出さる、様子知らねば、何やらん死罪の御
場所へ行くことかと覺悟の用意心中に一首を咏
じていさぎよく最後をせんと思ひ定めて、

雲上なる君を思ひの道芝の

露と消えゆくけふぞうれしき

二十一日より二十三日に至るまで、更に引ついき

三回終日の審問ありしが、登幾子はもとより承服

せざりしかば、しからば其方上洛の存意の次第を

自筆にて書きつくべしとて、繩をゆるされたり。

筆とりてすらくと記したる文は左に

謹んで白、此度前の中納言様御慎の御儀、全く

以て無實の御罪に落ち入らせたまひし御事、乍

恐天朝へ奉言上、天朝より御勅諭を以て御開

被爲成、二度天下の御後見にも被爲成候は、御
國內へ異人などは一人も不入、さ候へば乍恐朝
廷の英慮にも叶ひ天下平かに相成べくと存じ、
婦人の身として恐多くも拙き長歌をついで罷出
候こと、是れ全く君の御爲天下の御爲と存じつ
めたる悲婦が誠心哀れ御聞き届けたまはらば廣
大の御慈悲と奉存候。(次號にて完結)

明治廿八年の大勝利割烹號外

(石井治兵衛 同 泰次郎 考案)

本日は伯林ビール會第十一回の春期
懇親會と我軍連勝の祝捷とを兼ね開
會致し候に付き特に料理献立は御案
内狀に御約束申上候通り漸く日清戰

争になぞらへ左の如くこじつけ工夫
本日の號外として献立を作り各位の
御一笑に附す

明治二十八年三月十日

伯林ビール會幹事

長與 稱吉
江木 保男

當日始末順序

芝烏森町湖月樓に於て開

會御料理獻立

陣立

日清韓談判

こうしゆ

皇軍渡韓

御膳

牙山

松さき

吸物

たぬ

花菜

粉山せう

御酒

日本刀

勇名ラツバ卒

玄武門

中皿

黄海

口取

鴨綠江

日本

支那

大連灣

さしみ

正 宗

エビス、ビール

かき

のり

あら

勇 び

日章かまぼこ

たかのとり

うに焼平海

ぶんどりかん

勝 栗

か つ 盃

は ぬ せん

艦 た む

原 作 名 士

か つ ら 大 根

い かり ほう ぶ

旅順口

鉢肴

築城

椀

威海衛

取小皿

陸海の

香物
御膳

茶通

わ さ び

日本兵

かつみ百合

砲連双

勝賀

支那兵

おがみたぬ

つま折さより

雪中

進乗

いかいのの

木のめあへ

つくくし

大刀豆根

上商

上繁昌

菓子

萬歳香

おことはり

割十二月 (やよひ)

三月の料理には雛祭にゆかりあると思ひたり
しに、筆者割烹上の軍事に暇なさがため、やす
みとす、其かはりとして、右の號外を配布す
ること、しつ〇考案はよむ者の心にまかせん。